

1. 略歴

1979年 9月	国際基督教大学 教養学部 人文科学科 入学
1984年 3月	国際基督教大学 教養学部 人文科学科 卒業
1984年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 修士課程入学
1987年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 修士課程修了
1987年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 博士課程入学
1990年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 博士課程単位 取得満期退学
1990年 4月	東邦大学薬学部 専任講師
1992年 4月	中央大学法学部 専任講師
1993年 4月	中央大学法学部 助教授
1998年 4月	中央大学法学部 教授
2014年 4月	上智大学文学部英文学科 教授
2016年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻博士号（学術）取得
2017年 4月	日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員（～現在）
2019年 4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

イギリス文学、比較文学

b 研究課題

イギリス文学、文化における「階級」の表象が研究の中心である。小説や演劇、詩、そして音楽や視覚芸術、映像作品、そしてアダプテーションも含む幅広いテキストにおける「階級」の概念とイメージ、ステレオタイプの考察を行っている。

c 概要と自己評価

2018年度から2019年度にかけては以前から研究の対象だった「文学作品」のアダプテーションを引き続き行うと共に、イギリスにおける「黒人」のイメージとその変遷という課題も扱った。いずれの研究も「階級」という視点を用いたものである。例えばジェイン・オースティンの小説においては、現代イギリスにおいても完全には理解されていない当時の「階級」という要素が、ハリウッド映画や人気テレビドラマへのアダプテーション作品においてどのように変化し、受容されるかを分析した。また、イギリスにおける「黒人」のイメージは、現在ではよくとりあげられている研究である。しかし本研究では18世紀の「反奴隷制運動」が、アッパー・クラスにあこがれるミドル・クラスにとりあげられ、表面的な「流行」となって、感傷的な詩や演劇作品を生み出したことを分析したことに独自性があると思われる。2019年度にはさらに、イギリス文学、文化における「アッパー・クラス」の表象の研究に着手し、「カンントリー・ハウス観光」をテーマに小説、演劇と詩の考察を行った。これまであまり研究されていなかった「ロウワー・ミドル・クラス」の表象を引き続き行うと共に、イギリスにおける「他者」、「理想化されたアッパー・クラス」にも研究対象を広げている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、新井潤美「ジェイン・オースティンのアダプテーション——成功の秘訣」、中央大学人文科学研究科編『英文学と映画』、中央大学出版部、2019.3

共著、新井潤美「コックニー」、「イギリスを知る会」監修『ヴィクトリア朝が教えてくれる英国の魅力—イギリスを知る10のキーワード』、ダイヤモンド社、2019.9

単著、新井潤美、『(英国紳士)の生態学—ことばから暮らしまで』、講談社、2020.1

(2) 論文

新井潤美、「イギリスにおける反奴隷制運動と文学」、『英文学と英語学』、第55号、1-23頁、2019.1

新井潤美、「変わりゆくヴィクトリア女王の「イメージ」」、『ヴィクトリア朝文化研究』、第17号、119-25頁、2019.11

新井潤美、「Janeitesの功罪——Jane Austen 受容についての考察」、『東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要 文化交流研究』、第33号、65-70頁、2020.3

(3) 解説

新井潤美、「目からウロコの名作再読4——ジェイン・オースティン著『高慢と偏見』、『中央公論』、第133巻第4号、254-255頁、2019.4

新井潤美、『ピータールー』解説、映画『ピータールー』プレス用パンフレット、2019.5

新井潤美、映画『ピータールー解説』、映画『ピータールー——マンチェスターの悲劇』劇場用パンフレット、2019.8

新井潤美、「郊外の〈英国紳士〉たち」、『本』、44-45頁、2020.2

(4) 学会発表

国内、新井潤美、「ジェイン・オースティン映画の解釈と受容」、アメリカ学会、北九州市立大学、2018.6.3

国内、新井潤美、「プーター氏の悲哀—ヴィクトリア朝におけるロウワー・ミドル・クラスの表象」、日本ヴィクトリア朝文化研究学会、日本女子大学、2018.11.17

国内、新井潤美、「‘Rather a Friend to the Abolition’——ジェイン・オースティンの作品における「黒人」への言及」、日本ギャスケル協会第31回大会シンポジウム「イギリス小説における黒人の表象あるいは不在」、実践女子大学、2019.10.5

国内、新井潤美、「The Stately Homes of England—イギリスのカントリー・ハウスと文学」、早稲田大学英文学会・英語英文学会2019年度合同大会、早稲田大学、2019.11.30

(5) マスコミ

「カントリー・ハウスへようこそ!」、『日本経済新聞』、2019.7.15

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

セミナー、イギリスを知る会、「カントリーハウスの貴族と使用人の世界」、2018.7

非常勤講師、東京大学大学院総合文化研究科、「イギリス表象芸術論」、2018.9～2019.1

非常勤講師、上智大学、「Special Topics in British Studies in English」、2019.4～2019.7

朝日カルチャーセンター、「P.G. ウッドハウスの「ジーヴス」を読む——完璧な使用人?」、2019.5

非常勤講師、上智大学、「英文学特講・演習」、2019.9～2020.3

(2) 学会

国内、日本比較文学会、理事、2018.6～

国内、日本英文学会関東支部、理事、2019.4～

国内、日本比較文学会東京支部、幹事、2019.6～

(3) 行政

法務省、考査委員、2018.10～2021.10

(4) 学外組織

日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、2017.4～2021.3